



ゲーム人気で広まる「西遊ブーム」

北陸銀行 国際部
大連駐在員事務所
金春梅

1. はじめに

『黒神話：悟空』は、中国の神話『西遊記』をモチーフにした中国の人気ゲームです。発売わずか1ヶ月でゲームプラットフォーム「Steam」でのダウンロード数が2,000万回、売上総額は67億人民元を超え、中国のゲーム史を塗り替えました。同ゲームの発売に伴い、「西遊ブーム」が中国の各地で広がっています。

今回は、『黒神話：悟空』が消費市場に新たな活力を与えている「西遊ブーム」について紹介したいと思います。

2. 多くのファンを獲得した『黒神話：悟空』

ゲームのあらすじは、孫悟空が敵に敗れ、再び石に封印されてから数百年後の世界が舞台となっており、世界に散らばった6つの宝玉を集めることで齊天大聖（＝孫悟空）が復活するという伝説を頼りに、主人公の猿（＝プレイヤー）が孫悟空の復活を目指して『西遊記』の世界を旅していくという内容です。

中国では「孫悟空と仲間たちが三蔵法師を護衛して旅をする」物語自体はもちろん、同ゲームのキャラクターの性格や能力などは広く知られています。それに加え、200種類を超える妖怪や獣など多種多様な敵の登場、様々な武器の使用、その他多くの隠しアイテムなども、ゲームマニアを熱狂させる魅力要素となっています。

発売1ヶ月後も依然ネットで「人気上昇中の検索ワード」に上がっており、世界最大のゲームメディアであるIGNはこのゲームに10点満点の評価を与えました。高評価の理由として、芸術性の高さ、特にグラフィックの美しさが話題となっており、ゲーム画面のスクリーンショットを撮り楽しむプレイヤーもいるようです。さらに民族的な音楽も印象的で、サウンドトラックのファンも多くいます。

ゲームを開発した「遊戯科学」社は、チャットアプリのWechatで知られるテンセント社のゲーム部門から独立した設立10年目の若い会社ですが、同社から多額の投資を受け、140人程の少人数チームながら『黒神話：悟空』の完成を実現させました。

実際に体験した人からは、「想像以上に面白い。海外のトップゲームに引けを取らない画質と内容で、ハマる！」という感想を聞きました。

3. ゲームによる消費市場の新たな活力

(1) 山西省への「聖地巡礼」が爆発的に増加

同ゲームは、雲岡石窟や華嚴寺などの山西省の歴史文化遺跡が多数登場するため、山西省へのいわゆる「聖地巡礼」旅行がブームとなっています。山西省は「中国古代建築物の宝庫」と称され、数多くの建築物が今もそのまま残されており、山西省の文化・観光庁が公開した「悟空と山西省を旅する」動画も人気となっています。

旅行予約サイト「飛豚」によると、2024年の夏休み期間中、山西地区関連予約（チケット予約、レンタカー、観光ルートの手配を含む各種観光サービス項目）は前年同期比約70%増加したそうです。一部の景勝地の入場券販売枚数は、前年同期比約3倍に急増しました。

(2) 全国各地で開かれた「西遊」関連イベント

①孫悟空の生誕地、江蘇省連雲港のウェブサイトでは、ゲームをクリアしたプレイヤーに無料で観光地の入場券を提供。

②中国邮政集団南京市支社はコラボ切手・はがき製品3万セットを発売。発売開始後5秒で完売。

③「華誼兄弟」（中国で有名な映画撮影会社）が、同ゲームの映画化を検討。

④広東省深セン市で『黒神話：悟空』シンフォニーコンサートを開催。チケットは発売後2分で売り切れ。東洋文化と西洋交響楽が融合したゲームの代表曲を演奏。

(3) 「瑞幸(ラッキン)コーヒー」がコラボ製品を開発

国産ブランドコーヒーショップの「瑞幸コーヒー」は、コラボ商品やグッズを発売しました。システムがダウンするほど注文が殺到し、発売後すぐに売り切れたグッズもあったようです。

4. おわりに

国内証券会社である華泰証券は、『黒神話：悟空』の年間ダウンロード数は3,000万～4,000万回（売上総額は100～140億人民元）に達するだろうと予測しており、世界のゲーム市場における中国産ゲームの競争力を明らかにしました。

『黒神話：悟空』は、世界中のプレイヤーに中国の伝統文化の魅力を伝え、「聖地巡礼」による観光業の発展、文化と経済の相互促進にも貢献しています。今後の中国国産ゲームの世界展開に注目が集まっています。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp